

市が発令する  
**避難情報**

**避難準備・  
高齢者等避難開始**

避難に時間がかかる人（高齢者など）とその支援者は、避難を始めてください。その他の人は、避難の準備を整えてください。

**避難勧告**

早めに避難場所へ避難してください。外出することがかえって危険な状況では、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難してください。

**避難指示(緊急)**

まだ避難していない人は、早急に避難場所へ避難してください。外出することがかえって危険な状況では、近くの安全な場所や自宅内のより安全な場所に避難してください。

※この順番で発令されるとは限りません。また、発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難所(場所)または安全な所へ避難を始めてください。

①豪雨で大きく崩落した山の斜面 ②無残にえぐりとられた山間部の道路  
③橋脚にぶつかり荒れ狂う濁流(彦山川) ④彦山川の橋をふさぐ大きな流木  
⑤田川文化センター裏の道路が陥没。住民の生活圏にも被害が及びました



災害に備える1冊  
**田川市災害対応  
ガイドブック**

浸水想定区域や土砂災害警戒区域のほか、災害の備えや避難行動の知識を掲載。市役所や市ホームページで入手できます。

自衛隊などがすぐにかつてくれるとは限りません。最も早く、最大の効果を発揮するのは、自分の命を自分で守る「自助」です。自分の力で逃げられない人には、近くにいる人で助け合う「共助」が必要です。市から避難情報が発令されているということは、みなさんに危険が迫っていることを意味します。どうかこれを重く受け止め、命を守る行動をとってください。

一方「防災行政無線が聞き取れない」「避難情報の意味がわかりにくい」など市の課題も指摘されています。100年に一度「過去最悪」などの状況が頻発する時代。市民と行政、それぞれの課題に向き合い、明日起こるかもしれない災害に備えましょう。

7月5日、気象庁は異例の記者会見を実施し「記録的な大雨になる恐れがある」と警戒を呼びかけました。その後もなく、昨年の九州北部豪雨を上回る規模の「これまでに経験したことがない大雨」が西日本に襲撃。翌6日には、福岡県、佐賀県、長崎県に大雨特別警報が発表され、その後、過去最多の11府県に大雨特別警報が発表される異例の事態となりました。

同日に彦山川・中元寺川上流の添田町で記録された降水量が観測史上最高を更新。河川の氾濫、土砂災害発生のおそれが高まったため、市は7月6日の18時20分、市内全域に「避難指示(緊急)」を発令しました。市内を流れる彦山川、中元寺川、金辺川の水位は上昇を続け、特に中元寺川では、春日橋水位観測所の氾濫危険水位4.19mを超

「自助」「共助」「公助」それぞれの課題を胸に

ときに災害は複数の場所で同時に発生します。あなたに危機が迫ったとき、「公助」を担う消防や警察、

命を守るための行動  
**避難**

昨年7月の九州北部豪雨災害から1年。再び記録的な豪雨が西日本の各地を襲いました。死者・行方不明者が200人を超える平成最悪の豪雨災害。これまでに経験したことのないような大雨の中、生死を分けたのは「避難」という行動でした。

危機は増大。  
危機感はどうか

「最高で4.26mに達しました。昨年よりも切迫した」「平成30年7月豪雨は、またしても「避難しない人」をいかに減らしていくか」という全国的な課題を浮き彫りにしました。今回、市内全域に発令した避難指示(緊急)の対象者は2万4千449世帯、4万8千217人で、そのうち実際に避難所へ避難したのは266人。全体のわずか0.5%でした。幸い、人命が奪われることはありませんでしたが、上の写真のように、人命や財産を瞬で飲み込むほどの脅威が、みなさんの背後に迫っていたのです。「今まで危なかったことはない」「ここは大丈夫だろう」。その安心感に、明確な根拠がありません。いつ、どこで起こるか分からない災害の前で「今までは」という感覚は、命を危険に晒します。



防災行政無線が聞き取りにくいときは

☎0120-894-215

避難情報など、大切な情報を防災行政無線で放送します。放送内容は専用電話(☎0120-894-215)や市ホームページ(QRコードまたは<http://www.joho.tagawa-fukuoka.jp/kiji0031901/index.html>)でも案内しています。もう一度聞きたいときや聞き逃したとき、雨音や落雷の音などで聞き取れないときは、必ずどちらかの方法で内容を確認し、命を守る行動をとってください。

